

一 教学入門 ④ 信行学の実践

※信行学に関する御書の一節です。空欄に適切な言葉を入れて下さい。

一閻浮提第一の（御本尊）を信じさせ給へ、
あひかまへて・あひかまへて・（信心）つよく候て三仏の守護をかうむらせ給うべし、
（行学）の二道をはげみ候べし、（行学）たへなば（仏法）はあるべからず、
我もいたし（人）をも教化候へ、行学は（信心）よりをこるべく候、
力あらば一文一句なりともかたらせ給うべし

末法に入て今日蓮が唱る所の題目は前代に異り

（自行化他）に亘りて（南無妙法蓮華経）なり

深く（信心）を發して日夜朝暮に又懈らず磨くべし何様にしか磨くべき

只（南無妙法蓮華経）と唱えたてまつるを是をみかくとは云うなり

かかる者の弟子旦那ならん人人は宿縁ふかしと思つて

（日蓮）と同じく法華経を弘むべし

※次の信行学についての文章を完成させなさい。

「信」は仏の教えを信じて受け入れることです。（仏）の境涯を開くための唯一の道です。信受することでのみ仏法の法理を得ることができ、（以信得入）と表現します。

「行」の実践には（自行）（化他）の両面があります。

（自行）とは自分が功德を得るための実践であり、具体的は（勤行）です。

（化他）とは他人に功德を受けさせるために仏法を教える実践であり、具体的には

（弘教）です。また広宣流布のための様々な実践活動もこれにあたります。

「学」とは教学と呼ばれる仏法哲理を学ぶことです。大聖人が遺された手紙や論文を集めた（御書）を拝読して正しい仏法の法理を学ぶことです。

（信）・（行）・（学）のいずれが欠けても、正しい仏道修行にはなりません。